

GS II 課題研究中間発表会を実施しました！

平和班（4班）、医療班（9班）、水班（4班）が約8ヶ月の研究成果について英語による10分間のプレゼンテーションと3分間の質疑応答を実施しました。修学旅行や定期考査などで慌ただしい中準備を進めてきたため、納得いくまで研究を進めることができなかった班もありましたが、可能な限り「伝える」プレゼンになるよう工夫して研究成果を披露しました。長崎大学の先生方も参加してくださり、多くのご質問とご助言をいただきました。プレゼンテーションと英文レポートによる審査の結果、優秀班が次のように決定しました。2月26日（月）に本校体育館で開催される「課題研究発表会」において、優秀班はプレゼンテーション（下表の6班）、その他の班はポスター発表をそれぞれ行います。

班	メンバー	テーマ
平和①	小島風夏・中田夢生・橋本彩華 平山彩乃・中路那由未・溝口祥帆	平和の副教材を用いて、世界の人々の平和への認識を深め、意識を高められるか。
平和③	湊詠実・田村野乃華・峰董 森内ひより	おもてなしの心が創る友好的な国際関係
医療①	井戸大貴・門村祐汰・濱崎美来 手島優芽・中野優香	唾液のはたらきを促進させることで虫歯予防はできるか？
医療⑨	幸野友哉・川原綾香・関清花 一ノ瀬音葉・坂本茉優	ベトナムの呼吸器疾患をマスクで改善
水 ①	大曲秀明・奥田祐大 小林雅和・高島俊祐	アオコの生態 ～富栄養化との関係～
水 ②	小山陸斗・高原竜也 寺尾公志・中尾凜太郎	アジアの養殖による水問題の対策



「ノーベル平和賞受賞記念特別市民セミナー」に参加してきました！

1月13日（土）に原爆資料館ホールにて、先日ノーベル平和賞を受賞したICANのベアトリス・フィン事務局長をお招きして、「核兵器禁止条約をどう活かすか」という題目で特別市民セミナーが開催されました。最初に、フィン事務局長は、「核兵器禁止条約は、被爆者の方々の協力なしには成立しなかった」と、被爆者の方々に感謝の言葉を述べられました。その後、核兵器の非人道性、核兵器禁止条約の有用性などを訴えられました。また、条約に賛成していない日本政府に対して厳しい見解を示し、「日本はこの条約に参加すべきだ。核兵器廃絶に対する、ナガサキ・ヒロシマの意見と日本政府の意見の間には、ギャップがある。市民が一丸となって政府に訴えかければ、それは政府も無視できなくなる。私たちが持つ道徳的権限や私たちの声が必要だ」と、お話しされました。

続いて、ICAN国際運営委員の川崎哲さん、外務省軍備管理軍縮課長の今西靖治さん、日赤長崎原爆病院名誉院長の朝長万佐男さんを交えてのパネルディスカッションが行われました。今西さんが、日本政府の目指す、核兵器廃絶へのプロセスを説明されましたが、フィン事務局長や川崎さん、そしてセミナー参加者からも、核兵器禁止条約に対して消極的な態度を示す日本政府への厳しい指摘が続きました。

最後に、フィン事務局長に、「若い世代に求めることは何ですか？」と尋ねたところ、「これから先、被爆者の方々の話を引き継いでいくこと、そしてそういった活動をするコミュニティーに参加し、活動を続けていくことが大切だ。」と、お答えいただきました。今回のセミナーで学んだことを今後の活動に活かし、長崎から世界へ平和を発信し続けていきたいと思えます。（2年7組 溝口祥帆）

